



あけのべ  
 養父市の山間部に位置する明延では、住民が元気に暮らしていくための取り組みとして、地域でできることを前提とした「明延ご機嫌暮らしプログラム」を作成しているよ。明延の地域を活性化するために、住民が協力して、新たな活動に取り組んでいるんだ。

# みんなで作る

## 高齢化への対応と地域活性化の取り組み

養父市大屋町明延は、かつて明延鉱山で栄えた鉱山町で最盛期の昭和30年頃には約4000人の住民でにぎわっていたが、昭和62年の閉山後、急激に人口減少と高齢化が進み、現在は約80人が暮らす。そのうち半数は75歳以上で、市内でも早くから限界集落となった。そこで、同地区では、高齢化への対応と、貴重な明延鉱山の遺構の2つを関連させた地域活性化の取り組みの担い手として、住民を中心とした「特定非営利活動法人 一元電車あけのべ」を発足した。

## 「一元電車」を通じた地域づくり・担い手づくり

かつて鉱山従業員の通勤を支えた「明神電車」は、乗車料金が1円で「一元電車」として親しまれていた。平成19年、閉山20年の節目を契機に「ふるさと明延まつり」を開催し、「一元電車」を動かしたところ、大きな反響を呼び、平成22年以降、春から秋にかけての第一日曜日に



ご様子伺いの様子



一元電車まつりの様子

# 明延鉱山を活用した地域活性化と「明延ご機嫌暮らしプログラム」

体験乗車会が行われるようになって。毎年10月には「一元電車まつり」が開催され、第10回目となる今年は約2400人が参加。鉱山坑道の探検やミニコンサートなども行われ、住民だけでなく地域外からも多くの人が集う恒例イベントとして定着している。今では、イベントをきっかけに明延を訪れた人と住民との交流が盛んになり、移住を希望する若者も増えてきた。今後の地域の担い手の育成に期待が高まる。

## 明延ご機嫌暮らしプログラム

高齢化の対応として、住民がいつまでもふるさとで元気に過ごすため、住民・地域ができることを前提

とした「明延ご機嫌暮らしプログラム」を作成。公的な福祉サービスの対象とならない生活課題に取り組む。住民の見守りと安否確認のため、全戸を月2回訪問して声を掛け合い、住民から困り事などの相談があった場合は地区役員へ報告して連携を図っている。また、各戸から出されたごみの仕分けや運搬の手伝い、ごみステーションの管理も行っており、住民から感謝の言葉を受けることも多いという。

同法人は、明延と他地域をつなぐ担い手となって市や近隣地域と連携し、さらには雇用を生み出して「ふるさと明延」を存続させることを今後の目標にしている。

## 取材を終えて

イベントの参加者だけでなく、ボランティアも年々増加しているそうです。住民のつながりを感じることができる温かい明延のまちで、地域の支え合いの輪が広がっています。

特定非営利活動法人一元電車あけのべ  
 養父市大屋町明延1184  
 TEL 079-668-0258